

知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー地域意見交換会 議事概要

開催日 平成29年2月10日(金) 16:30~18:30

場 所 羅臼町役場2階大会議室

参加者 計16名

漁業者・経験者4名、羅臼漁協1名、ガイド関係者4名、知床財団2名、環境省1名、羅臼町役場2名、提案者2名

資料 実施概要、知床岬羅臼昆布の歴史調査結果、アンケート結果、有識者レポート、季刊誌 KAI 特集記事 本ツアー関連新聞記事切り抜き、

〈エコツアー実施状況等の報告について〉

提案者より、別添資料を基に過去3年間実施されたモニターツアーについて報告した。過去3年間で99名が当ツアーに参加した。併せて、ツアーのモニタリングや植生のモニタリング、知床半島利用者モニタリングも行っている。結果については、資料のとおり。特にツアー後のアンケートにより、参加前と参加後では知床半島の魅力が増えたと実感した参加者多くいたことが分かった。

〈意見交換〉

①実施者として

・多くの参加者と有識者の方々にご参加いただいた。参加者の満足度は高いと感じている。赤岩で仕事をしている人たちにも快く迎えてもらい、参加者の人たちも地元愛を感じることが出来たとの声が聞こえた。しかし、周知方法や内容に制限があり、ターゲットと実際の客層に隔たりがあるなどやり難さを感じた。

・赤岩での昆布漁の歴史を伝えるという教育目的で行っていたという認識。個人的には、レジャー目的でも動力船での上陸は問題ないと考えており、人数や場所のルールをしっかりと決めたほうが良いと思う。前回の利用の心得検討部会でも発言したが、身障者など先端部まで歩いていけない人は先端部に立ち入れないということかと感じる。ツアーについては、単価が高すぎるのでもっと安価で行えれば良い。

②赤岩漁業従事者、元赤岩漁業従事者、昆布漁業者として

・先端部におけるレクリエーション目的での動力船による上陸が禁止になった経過である盗掘等による植生の破壊については、多くは地元漁業者が原因であったと認識している。また、このツアーに人が集まらないのはツアーパッケージの悪さにある。それは多くの縛りがあるからであり、今後の会議での承認を得られれば今までよりは参加者も増えると感じている。

・当該ツアーについては、マナーも良いし、良いことだと思う。逆にトレッカーの方が住民にとって迷惑であることが多い。トレッキングの帰りを船で送ってほしいと頼まれたことも多くあり、番屋横にゴミが捨てられていたこともあった。

・昔はコンブ漁に行くことだけが岬に行く目的だった。今は多様な価値観が多くあるのだと感じている。トレッカーには迷惑したことも多かったが、人と会う楽しさはあった。昆布がちょうど乾く時間にトレッカーに歩かれて割れてしまうこともあった。他の観光地とは違い、滅多に来ることが出来ないところではあるので、考え方も難しいと思う。昔は営林署から丸太を払い下げてもらって家を建てたこともあった。ツアーについては、昔の苦労した歴史などを重ねたものを文化として伝えてもらうのは、良いことだと感じている。

・赤岩での漁の歴史は絶やしてほしくない。歴史を風化させないための、文化継承を狙いとしたツアーを続けて行ってほしい。かつては(20~30年前)、ウニ漁で5月から1か月間長谷川番屋を使わせてもらっていた。ウニ密猟の監視にも番屋を使っていた経緯もあり、組合でもプレハブ監視小屋を作っていた。相泊以北の養殖昆布漁業者も減ってきているため、長谷川番屋は残した方が良い。

・赤岩から話はずれるが、アブラコ湾の堤防は直せるうちに修繕したほうが良い。灯台の整備などで使うことも多くあるはず。文吉湾はあるが、近くのアブラコ湾が整備されることで、ボランティア活動などの幅も広がるはず。

・カヌー・カヤックが漁師の航路に割り込んできていて非常に危険。うねりや波で確認できず事故につながりかねない。高く旗を掲げるなど、工夫が必要。知床の利用の心得は周知徹底されていないと感じる。

③ガイド事業者として

・今回町民対象とした意見交換だと聞いていたが、実際は関係者ばかりなので今会議の意見を「町民の意見」としてまとめて提出するのはいかがなものか。昭和59年の動力船上陸禁止となった経緯については、動力船を使って上陸した一般客が植生を破壊し、そのことを懸念した両町の町民から声が上がったと記憶している。ツアーに関しては、コントロールされた良いツアーだと思う。昆布漁の文化もそうだが、北方民族が移動してきたルートなどのさらに古い歴史もある地区である。観光の起爆剤になればいいと思う。しかし、先述のとおり先端部の観光利用の抑制は両町民の想いでもあるので、そこはネックであると感じる。山岳会としても、岬を山と見立てた場合の山頂である先端部は、神聖な場所としての認識があり、大切にしている場所である。ツアーは良い内容であると考えますが、ホエールウォッチングほどの大きな事業にはならないとも感じている。懸念するのは、これから同じようなツアーをしたいと事業者が続々と出てきた場合の対処方法である。昭和59年ころにはエコツアーの概念はなかったもので、このツアーは別なものとして取り扱ってよいと思う。

・エコツーリズムは環境省含めた行政の理解・後押しがないと進んでいかないと思っている。今回のツアーも同様。指摘などあれば是非言って頂き、改善しながら取り組んで行ってほしいと思う。

④羅臼漁業協同組合として

・皆さんの話を聞いてでしかないが、良いツアーだと思う。漁協としても昆布漁文化を伝えるために継続して行ってほしい。

⑤知床財団として

・ツアーについて話し合うこういう状態が良い状態だと思う。当ツアーについては、本会議において議論されていくことと思う。先端部利用の心得の改変等、来年度に向けて先端部利用に大きな動きが出てくることが予想される。その中に組み込まれればと思う。本会議でも当ツアーを悪く言っている人は居ないが、先に意見があったとおりに似通った事業者が出てきた場合の歯止めを気にしている。しかし、それについてはその都度エコツアー検討会議等で検討していくしかない。当ツアーは町から出ている良い動きなどで、推奨していきたいと考えている。

・皆さん言うとおりに良いツアーだと思うし、参加者からも良い反応が得られているので、続けていきたいというのが総意で良いと思う。先端部の利用に関しては、釣りのツアーも動力船で上陸しているが、独自ルールを申請し、それを守って行われてきている。利用形態によってそれぞれルールが必要なことは確かである。当ツアーも利用者に上限を設けるなどのルールを示していければ良いのではないかな。

⑥環境省として

・当ツアーは羅臼町の文化的価値を伝えることのできる価値あるツアーだと認識している。環境省としても当ツアーの後押しをして欲しいとのことだが、観光面は不得手なので観光的助言は難しい。環境省としてできるのは、自然に配慮したエコツアーを実施するうえでの技術的助言となる。今後も引き続き、知床半島先端部の利用について意見を交換する場を設けたいと思っている。知床エコツーリズム戦略に則って実施している当ツアーをPRすることによってルールも周知されていくものと考えている。